

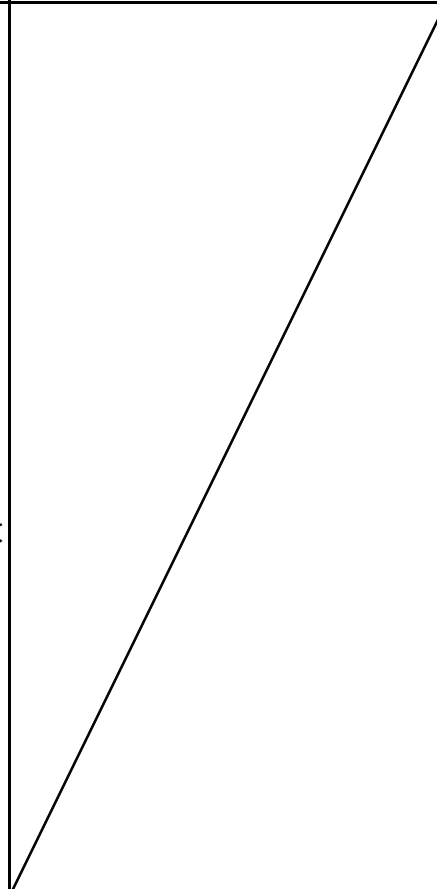
令和4年度 学校関係者評価(結果)

学校番号	62208	学校法人協谷学園 静岡南幼稚園	記載者	青島範明
------	-------	-----------------	-----	------

学校教育目標	遊びを通して様々なことを学び、互いの考えを尊重しながら、自己を確立する。	【総合評価】 それぞれの目標項目に対し、園の教職員がよく努力して取り組んでいる状況が、学校関係者評価委員により評価されている点は嬉しいところである。しかし、次年度への取り組みにおいて、指摘をされる部分も多く、令和5年度においては、よりアクレシブな教育活動を展開していくことが望まれていると感じている。そうした、要望に応えるべく、止まることなく、挑戦することを恐れずに、静岡南幼稚園ならではの教育スタイルを追究していきたいと考える。現代の幼児教育のキーワードは、おそらく「非認知能力の育成」であると考えているが、令和4年度での教育活動を見ていく中で、幼児期における認知能力開発に関するアプローチの可能性を感じたこともあり、教職員一同の協力のもとにより進化した静岡南幼稚園の姿を評価してもらえよう努力していきたい。		
教育方針	・学校教育法及び幼稚園教育要領に従い、幼児教育の役割を遂行する。 ・家庭では体験できない新たな世界と出合いの場を設け、幼児の自立に向けた基礎を育成することをねらいとした教育を目指す。			
今年度の重点目標		評価	今年度の成果と課題	次年度の取組
1 少子化がさらに進行する中、目標園児数(収容定員)を獲得する		5	満3歳児の受け入れやりんごちゃんルームなどの活動が功を奏し、未就園児の取り込みや目標園児数の確保に成功したと評価する一方で、幼児教育・保育の無償化やホームページのリニューアルなども影響し、3歳で幼稚園に通わせる保護者が増えた。	地域との連携やデジタルサイネージなどを利用した活動で未就園児の取り込みや園の魅力発信に努める一方で、保護者のニーズに合った新しい取り組みや職員全体のPR意識の向上が必要だと考える
2 強い組織づくりをする		4	先生方の団結力が強く、学年を超えて子ども達に接する姿が運動会や作品展などで見られ、組織力の強さを簡易することができた。	教員志望者の減少に対応するためには、待遇の改善や先生方のやりがいや適材適所を重視し、自らが積極的に何事にも取り組める意欲を持てるような職場環境を構築すること。また、園のセールスポイントを共有することが強い組織づくりに必要だと考えられる。
3 時代が求める教育を展開する		4	園児の主体的な発言や行動を先生方がサポートし、フットボールやあそびっこ、作品展、運動会、遠足、発表会、実験あそび等、様々な活動を通して非認知能力を育てる教育が展開された。	子ども達の自主性や気付きを促す教育や、遊びや体験の機会を提供する活動を継続しつつ、伝統的な行事や遊びも時代に合わせてアップデートすることが必要だと考えられる。

領域	ねらい	評価項目	今年度の達成目標	昨年度の実績	評価	今年度の成果と課題	次年度の取組
学校経営・教育課程・指導方法	適切な教育課程が編成され、学習目標・計画が明示され、日常の学習活動を効果的に展開する。	教育課程、教育目標・計画・指導、課題実	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も新型コロナウイルスの感染拡大については、予想がつかない状況下にあるが、昨年度同様、行事及び活動を中止するのではなく、実施内容・方法を検討することで、子どもたちの体験から学ぶ機会の確保に努める。 日々の教育活動の中において、子どもたちの個性を認めながら、誰もが活躍できる教育活動を展開する。 学年に応じて行われる外部講師による「リズムあそび」、「あそびっこ」「フットボール」、「スイミング」や、内部のALTによる「えいごあそび」を展開し、活動を通して、子どもたちの「非認知能力」を高めるとともに、本園の強みとなる教育活動として強く外部にアピールする。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス禍の中、安全管理を行いながら、行事や活動を実施してきた。なるべく中止にするのではなく、実施内容や方法を検討し、時間短縮等をし、計画実施した。子ども達の体験や経験を減少せず、実施できた。 今年度も一人ひとりの関わりを丁寧にし、生き生きとした自分らしさを身に付けられるようにした。個性が発揮できる場を設けたり、子どもの育ちを考え、日々の教育活動が充実するよう取り組んだ。 スイミングや英語あそび・あそびっこ等を日常の教育活動に導入していることで、保護者もそうした点が魅力と感じ、入園を希望する方が増えた。園としても、更なる教育活動の充実と、時代が求める教育活動を積極的に展開し、本園の特色としてアピールしていきたい。 	5	<ul style="list-style-type: none"> フットボール活動で、友達と協力する姿や園児たちの成長が評価される。 感染対策をしながら行事や活動を実施し、子どもたちがマスクをした状況でも、日常の教育活動における英語遊びの回数の増加や放園後の英語教室が始まったことなどが評価される。 子どもたちが自分で考え行動する姿が見られたことも評価される。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ対策や運動や階段指導などの教育活動を継続しつつ、教職員や保護者との共有や説明を徹底し、本園の特色ある授業を展開することが課題だと考えられる。 また、振り返りのタイミングや子どもたちの興味に応じた経験の提供も課題として挙げられる。
安全管理	日常から防災に対する意識を高め、予期せぬ災害時に適切な対応ができる体制作りをすることが必要。また、学校としても校内の危険個所の定期的な点検、園バスの安全運行といった意識を常に持ち合わせる。園児の健康管理のための検診計画を作成・実行し、疾病者に対する治療勧告を行う。	防災訓練(校内・校外)、災害時の対応、安全な教育環境、安全なスクールバスの運行、検診計画、健康管理指導	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じての防災に係る訓練を実施し、有事の際に、子どもたちも適切な行動がとれる訓練を実施する。 園内外で起こる事件・事故に対応すべく、教職員の防犯に対する意識を高める。また、外部から入手した事件情報に関して、保護者とも共有するよう努める。 遠足及び園外保育など、外部での教育活動を実施する際は、目的地までの安全な移動方法及び現地での安全な活動実施が可能となるよう、該当学年による事前の下見と教職員間の情報共有を図る。 園児たちの登降園児の安全確保のため、交通ルールを学ぶ安全教室を年間で計画し実施する。 園バスの運航に際し、事故の発生がないように、運転手に対する指導、さらには添乗する教職員に対する指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 園児の避難訓練、担当者による安全点検を適切かつ定期的の実施した。園庭の遊具だけでなく、施設設備の老朽化が進行しているため、対応策を計画した。例えば、回転遊具が破損していたり、塗装が剥けてきたので入れ換えをおこなったり、幼稚園の門扉が破損していたため、修繕工事を行い新しくするなど、迅速に修理及び差し替えを行った。 来訪者には、正門ではインターホン必ず押してもらい、顔を確認してから入ってもらうようになっている。またその際、鍵の掛け閉めも忘れずをお願いしている。 最近是不審者の情報も聞かれるので対応についても、教職員の連携を考えていきたい。 子ども達の安全確保のため、防犯カメラを7か所設置している。 園外活動、遠足等、園外へ出ることも多いので事前に目的地や道のり等の下見をし、安全の確認をしてきた。又、登降園の際も交通ルールを守り、子供達自身にも確認させ、身につくようにしてきた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練や引き渡し訓練、また園バスに取り残された際のクラクションの使い方など、有事に備えた安全管理が実施されており、保護者や園児たちが安心感や緊張感を持っていくことが評価される。 園バスの置き去りについても、トリプルチェック体制がとられており安全管理がなされている。 1月に起こった、幼稚園に対する脅迫メールの際は、速やかに保護者にメール配信し、状況を説明し保護者送迎にするなど対策を取っていた。普段とは違う先生方の行動で、良い意味で緊張感が伝わり、保護者一人ひとり意識を持つことができたと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 園バスの降車時の確認や避難訓練の徹底、不審者や地震への対策や連携、保育室の整理整頓がもたらされる。 園バスの送迎や出欠確認のマニュアル作りと公開することで、子ども自身が自分を守る教育を展開すること。 コミュニティの活用で園バス利用者の安心・安全を高めること。 不審者が現れた際の対応や訓練、防犯用の道具などについて有事への備えをしっかりと行う。

<p>子育て支援</p>	<p>年間を通じて、本園独自の子育て支援活動に積極的に取り組む。</p>	<p>年間を通じて、開園日の預かり保育及び長期休業中の預かり保育の実施、入園希望者に対する園の公開活動、未就園児を対象とした本園独自の活動の展開</p>	<p>・年間で200日を超える預かり保育の実施日を設置し、利用する保護者や子どもたちに対する利便性を高める。</p> <p>・1・2歳を対象とした未就園児が参加できる「親子ふれあいあそび」や「りんごちゃんルーム」を、各月に実施することで、幼稚園がどのようなところか、早期段階で保護者に理解してもらい、子どもたちが体験する場を設けることで、保護者に対する子育て支援を展開する。</p> <p>・本園がどのような教育活動を展開し、どのような特色を持った幼稚園であるかを理解してもらうために、園見学会や体験入園の実施回数を、昨年度以上に増やす。また、広報には、園長・教頭だけでなく、教職員が全体で取り組む意識を持つ組織づくりをする。</p>	<p>・預かり保育時間は朝7:30~8:30、保育終了後は基本14:15~18:00。今年度は、なるべく預かり保育を実施し、保護者の方に安心して子供を預けていただけるよう取り組んだ。また早朝の預かり保育を利用される方も増えた。</p> <p>・今年度は、園見学会4回と体験入園1回を計画し実施した。未就園児の保護者の方々に園の魅力や良さを知っていただき、多くの方に参加していただいたが、なかなか継続して来てもらうことは、難しく苦戦した。もっと園の広報の仕方を検討する必要があった。</p> <p>・親子で楽しく体を動かしたり、友達と遊ぶ楽しさも体験できるよう、今年度は「親子体操」7回「親子ふれあい子育て広場」6回を計画したが、新型コロナウイルス感染症予防の為、回数を減らした。</p> <p>・教員の数が減少したため、今年度も「りんごちゃんルーム」新たに未就園児の一時預かり保育「ちびっこじゃく」や満2歳児対象とした「いちごちゃん」等は実施しなかった。来年度は職員を整え、対象児の年齢を下げて実施できるように準備していきたい。</p>	<p>5</p>	<p>・預かり保育の実施日数や内容については充実しており、利用しやすさがあり、親としても安心感を持って子どもを預けられた。</p> <p>・保護者や地域住民との開かれた関係や風通しの良い状況の中で、活動が展開されていた。</p> <p>・親子ふれあいあそびやりんごちゃんルームなどの活動の情報発信に関しては、ホームページやインスタグラムを通じて、良く発信されていた。</p>	<p>・預かり保育の充実を現状の水準を保っていくこと。</p> <p>・未就園児の来園の場や内容に関する工夫を1歳から3歳に応じて工夫をしていくこと。</p> <p>・働く保護者や家族の多様化に対応した預かり保育のニーズや子育て相談会や情報交換会の必要性を考えること。</p> <p>・共働き世帯への支援体制の強化や預かり保育や未就園児へのフォローの継続をしていくこと。</p> <p>・預かり保育の料金や先生方の魅力の情報発信や入園料の割引など、入園を考える1・2歳の保護者が入園しやすいような環境設定が必要。</p>
<p>特別支援教育</p>	<p>支援が必要な子、気になる子への対応をすると共に、特別支援計画をたて実行する。</p>	<p>支援計画・支援体制の確立、巡回訪問カウンセリングの活用、療育施設との園児に関する情報交換、保護者との情報交換</p>	<p>・近年、入園面接の際に、自分の子どもが発達障害ではないかと考える保護者が増加している。そうした保護者に対し、子どもの状況を細かく見ながら、家庭と情報交換を密にし、子どもの指導に活かすことで、成長を助けていく。</p> <p>・入園後、指導の過程で気になる子供については、巡回カウンセリングを活用し、意見を園区とともに指導助言を求める。</p> <p>・本園以外で、療育指導を必要とする子どもたちについては、通所する施設との情報交換を密にし、保護者も含めて、三者で子供の成長をサポートする体制を展開する。</p> <p>・発達障害時に関しては、その子にあった個別指導体制をとれるような環境を作る。</p>	<p>・長期的な見直しをもつて、子供自身が自らの良さを出せるよう関わってきた。</p> <p>・各学年で支援が必要な子、気になる子が増加傾向にある。そのため、私立幼稚園協会の巡回訪問カウンセリングに申し込み、外部から専門家に来てもらい、気になる子の姿を見てもらった。また保護者にも来園してもらい、一緒に指導や対応の仕方を学んできた。一方、教職員は個々の園児に対して、丁寧に関わりを持ち、その子らしさを大切に、自信が持てるように援助してきた。担任だけでなく級外もサポートしてきたが、個々に合わせた教育活動を展開していくことは難しかった。</p> <p>・カウンセリングの講師、パッソやハッピーテラス等の療育施設、保健センター等と日常的に子どもの姿の情報交換を行い、保護者も含め協力して対応してきた。</p> <p>・発達障害児の個別指導計画書の作成をしたり、その子にあった指導を心掛けるように配慮した。また保護者と情報を交換し連携をとっている。</p>	<p>4</p>	<p>・発達障害のある子どもの状態に応じた環境や声かけの工夫がよくされており、温かく特別視しない支援体制が園全体でよくできている点が評価される。</p> <p>・教師が園児と一対一で指導する体制ができており、その子にできることの役割を与えることで、子どもに達成感を味わわせる支援体制ができていた。</p>	<p>・教職員の関わり方について、専門家からのフィードバックやスキルアップの機会を持つことが必要。</p> <p>・小中学校やその先への進路において、発達障害を持つ子供が、周囲から温かく見守られるような環境で育っていけるよう教える支援体制を継続してほしい。</p> <p>・保護者の不安や相談に対する専門家の支援体制が、幼稚園の中でもできると良い。</p>

教育環境	園児たちが楽しんで教育活動に取り組める環境づくりに工夫をする。	「週案」及び「日案」における計画的な教育活動の実施、日常の教育活動の展開のうえで、興味・関心を高める工夫、活動の振り返りによる次の活動に対するモチベーションを高める	<ul style="list-style-type: none"> ・「週案」及び「日案」で、短期的なスパンでの教育計画を作成する際に、子どもたちの興味・関心が高まり、個々の活動に対して楽しんで取り組めるようにする。 ・個々の教育活動において、子どもたちが自発的に考え、想像力を掻き立て、子どもたちの創造力を伸ばす教育環境の構築を図る。 ・教師も子どもたちも、様々な教育活動の節目節目で、「リフレクション(振り返り)」をすることで、より深く学びについて考えていける教育スタイルを作り実行する。これを、PDCAサイクルで繰り返し、「深い学び」への手法を構築する。 ・各活動を単発的に終わらせることなく、継続的な活動にしていくことで、活動に発展性を持たせ「リフレクション(振り返り)」の機会を多く設定し、それにより活動に更なる発展性を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達は様々なことに興味関心を示し、楽しんで活動や遊びを行っている。日々の教育活動においても、子ども達の持つ発想やアイデアを生かした活動をするよう意識した。 ・日々の保育を振り返り、教育の質が高められるよう、教師一人ひとりが意識してきた。教材研究や環境設定を見直し、ゆとりを持って環境作りをしていきたい。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達段階や興味関心に応じた教育がよく展開されており、個々の園児たちの想像力や思考力を伸ばす工夫がなされていた。 ・園長先生が用意した実験あそびのキットを使い、子どもたちは新たな発見をすることで、好奇心や探求心に刺激を受けていた。 ・作品展では、幼稚園生活における活動の振り返りが頻繁になされ、園児たちが、個々で考えることで、「想像力」と「創造力」の2つの「そうぞう力」が育成されていた。その過程で、子どもたちが楽しみながら取り組む姿を見ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週案日案での保育内容や活動の継続性の確認をすること。 ・図書コーナーの日光対策をするか、図書室の整備をすることで、落ち着いた子どもたちが本に親しめる環境を整備していくこと。 ・時代の変化に応じて、教育手法は変わっていく必要があると思うが、普遍的な教育目標はあると思うので、よきものは残しつつ、新しい方法の試みをしていくことが求められる。 ・空き部屋の活用を工夫することで有効利用していく発想が求められる。
研修	教育内容が問われる時代、教職員の資質向上が常に求められるので、計画的かつ時代が求める教師となっていくための研修を的確に実施し、各教職員が個々のスキルを上げていく体制作りをする。また、研修内容を共有化していくためのシステム作りをしていく。	計画的な研修体制の確立、校外研修への参加、研修報告会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修については、幼稚園協会がテーマとすることについての研修だけでなく、必要に応じてテーマを設定し、研修を実施することで、教員のスキルアップに努める。 ・外部の研修に関しては、人員のやりくりを考えながら、教職員が参加できるような体制を整えることで、教員の処遇改善の適応条件を満たせるようにする。 ・外部研修については、参加した教職員が学んだことを、教職員で共有できる機会を設け、全体でのスキルアップを図る。 ・ECEQの公開保育に応募し、本園の教育について、客観的な見地から外部の教員に評価をしてもらう。 		4	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の意欲や熱意は十分に伝わってきた。 ・教職員の学習や研鑽と併行して、教職員が自信をもって働くことができるような研修を行うことで、心身の健康を高めていくことができるような研修もあってもよいのではないかと。 ・公開保育を行い、他園の先生方から高い評価を得たことにより、先生方に自信や方向性がはつきりついたものと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師や研修会を活用して教師資質や方向性を高めることを提案する。 ・子どもの好みや感性に合わせたスペースやインテリアを設けることを提案したい。 ・研修は処遇改善やモチベーション向上に必要なが、多忙感を持つような研修は避ける。
保護者、地域住民との連携	保護者や地域諸団体や地域住民との交流・連携を図る。	保護者の会との情報交換、学校運営に対する外部団体の参画、外部要望の学校運営に対する反映、保護者に対する協力依頼	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染状況が沈静化しないと、地域との交流がとりにくい状況は続いていくものと思うが、少しでもかかわりが持てることに関しては協力する意識をもって活動していく。 ・外部からもたらされるオファーに関しては、できる限り応えるべく対応をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例年行われている中田本町「いきいき会」、デイサービススマイル、社会福祉法人葵寮等との交流活動については、新型コロナ感染防止のため、中止した。現状では、なかなか交流が難しいが状況を見ながら、今後も交流を行っていききたい。 ・アップリメイクやラジカルラボの依頼を受け、両社のCMに園長、教職員、年長児の代表の子が出演した。静岡放送、静岡第一テレビ、テレビ静岡で放送された。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で外部とのふれあい活動が制限されたことが残念であった。 ・スーパーでの絵の展示や中学校の職場体験など、幼稚園以外での交流が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との交流はコロナの状況に応じて進める。 ・保護者参観会や行事での保護者や祖父母の参加を増やせるよう努力してほしい。 ・新型コロナウイルスに対する行動制限が緩和され、保護者や地域住民、外部団体とのふれあい活動が再開されることを期待したい。 ・保護者会は行ってほしいが、PTA活動が保護者の負担にならないように改善する必要があるのではないかと。この点は、入園児の募集への影響もあると考える。
情報提供	幼稚園に関する活動状況などに関する情報発信を積極的に行う。	ホームページ、フェイスブック、インスタグラム等による情報発信、パンフレットの毎年更新、園メールやICTシステムの活用による保護者への情報提供と園との情報交換	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や社会で、本園の状況を知る入り口となっているホームページについては、全面的に刷新する。それにより、本園の教育内容が、より理解しやすい状態を作る。さらに、様々なイベントに参加したいと思う方たちが、イベントに申し込みしやすいシステムを構築する。 ・個人情報保護の観点からも難しいものがあるが、フェイスブックやインスタグラムなどで、本園の教育活動を公開し、子どもたちの躍動的な姿を公開する。 ・新たにICTシステムを導入することで、在園児の出欠管理、園バスに関する情報、預かり保育の申し込みなどについて、保護者の利便性を考えた環境を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も幼稚園案内、ホームページ、インスタグラム、フェイスブックなどの写真の記載について、保護者の承諾を得て実施しているが個人情報問題もあり制限される現状がある。 ・コロナ禍で感染症対策のため、保護者の方に子どもの姿を直接見ただけの機会が減ってしまったが、園のお知らせや毎月の園だより、学年だよりを作成し、定期的な園の様子や情報を提供してきた。また今年度は行事や活動等、子供達の生き生きとした姿や楽しんでいる様子を、インスタグラムやフェイスブックにあげ、幼稚園案内やホームページも活用して伝えることができた。引き続き、保護者との連携を大切にしていきたい。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス対策をしながら保護者と交流できるように努力している点は評価される。 ・Instagramやホームページでの情報発信を楽しんで見ている保護者も多く、今後も積極的に進めてほしい。 ・ホームページが新しくなって園の行事や先生の顔が見られることは、保護者にとっても大きな収穫であったと思う。また、アプリを差かった欠席連絡が便利である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンで保護者が様々な情報を、確認できるシステムを充実させること。 ・遅刻や欠席の連絡、イベント参加申し込み、支払いなどが利用しやすくなることを期待する。 ・外国籍の子や障害のある子の保護者にもアクセスしやすいシステム作りが必要。 ・仕事が忙しくてイベントに参加できない父兄のために、自宅からでも園内ツアーやYoutube配信を視聴できるようにしたい。 ・バス管理システムが始動すると助かるので、早く対応してほしい。 ・SNSで園の様子を公開することは良いが、防犯上の問題もあるかもしれないので、細心の注意を払うことが必要。
総合評価					4		